

「地元のため」心掛け活動

ニティアン副統括に聞く



AMDAのスリランカ医療和平プロジェクトで活躍したニティアン副統括

AMDA スリランカ医療和平プロジェクト終了

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市櫛津）がスリランカで行っていた医療和平プロジェクトが今秋までに終了した。スリランカ生まれのオーストラリア人で現地の副統括ニティアン・ヴィーラバグさん(38)に活動の成果や内戦状態に陥っている国の情勢などを振り返ってもらった。（斎藤章一朗）

状況改善へ支援継続を

医療和平プロジェクト 金を使った井戸やトイレを配布するとともに医療活動も実施。被災地の子どもたちにはスタッフが一緒にゲームをしてストレスを軽減するなど、心のケアも行った。

AMDAが活動していた地域は七月ごろから戦況が激化。仏教徒中心の

「津波被害の時、双方が一緒に取り組もうと悲しい。状況が良くなることを期待するが、それには世界各国の支援が必要。日本の人たちが起こっているかを知りたい」

AMDAは今後、北部のヴァヴニヤを中心に母子保健事業などを継続していく予定。

「物資を配るだけではない地域は七月ごろから戦況が激化。仏教徒中心の

「開始当時は貧血や栄養不良の人が多かったが、巡回診療などで徐々に減った。健康教育で手洗いを学んだ子どもたちが習慣として今も続けているなど、

「津波被害の時、双方が一緒に取り組もうと悲しい。状況が良くなることを期待するが、それには世界各国の支援が必要。日本の人たちが起こっているかを知りたい」

AMDAは今後、北部のヴァヴニヤを中心に母子保健事業などを継続していく予定。



きぶりに感心した。言葉

や地元コミュニティのルールにも順応し、地元のために何ができるかを考える姿勢が人々に受け入れられた」

○四年十二月のスマトラ沖地震では、被災者支援として食料や衣類など

動は他のNGO（非政府多数派民族シンハラ人主体の政府と、少数派でヒンズー教徒中心のタミル人国家樹立を目指す反政府組織タミル・イーラム解放のトラ（LTTE）が対立。○二年発効の停戦協定は有名無実化し、地上戦が続いている」

約三年の活動が終了後も、育成した現地ボランティア百五十人が健康教育を続ける。

「開始当時は貧血や栄養不良の人が多かったが、巡回診療などで徐々に減った。健康教育で手洗いを学んだ子どもたちが習慣として今も続けているなど、

「津波被害の時、双方が一緒に取り組もうと悲しい。状況が良くなることを期待するが、それには世界各国の支援が必要。日本の人たちが起こっているかを知りたい」

AMDAが活動していた地域は七月ごろから戦況が激化。仏教徒中心の

ズーム

医療和平プロジェクト 内戦や紛争などで対立する当事者双方に格差のない医療を提供して信頼を得ることで停戦を促し、和平実現へ貢献するという試み。1999年のコソボ紛争で初めて行われ、アフガニスタン、スリランカ、インドネシア・アチェ州の計4カ国で行われた。